

| | | |
|-------|--|---|
| 申請者 | 診療部 | 竹内 正志 |
| 15 | 記憶の組織化と睡眠段階の関係の検討 | |
| 研究の概要 | <p>記憶の再生においては、関連することがまとまって再生される傾向がある(記憶の組織化)。統合失調症患者は記憶障害を示すことが多いが、その主な要因として、記憶の組織化の障害が指摘されている。一方、統合失調症患者は、しばしば睡眠障害を示し、とくに深睡眠が少ないことが報告されている。今まで、睡眠と記憶の関係については様々な研究がなされているが、記憶と睡眠段階の関係については十分明らかになっていない。そこで我々は、今後対象を統合失調症患者とすることを視野に入れ、まずは健常者の記憶の組織化と睡眠段階の関係について検討する。</p> | |
| 判定 | 条件付き承認 | 本審査は、説明文書に責任者の氏名と連絡先を記載することを条件に、全員一致で承認された。 |

| | | |
|-------|---|-------|
| 申請者 | 看護部 | 水上 礼子 |
| 16 | 経腸からのミキサー食注入による患者の満足度調査 | |
| 研究の概要 | <p>当病棟では2月末現在、経腸栄養患者が18名と約半数を占めている。しかし、適切な速度で滴下しているにも関わらず、液体経腸栄養剤の弱点である下痢、胃食道逆流、栄養剤リークを併発している。下痢はほぼ全員にみられ、胃食道逆流は55%、栄養剤リークは33%に達し、ほとんどの患者が不快感を抱いている。この度医長のアドバイスの下、他施設での研究で、半固形化食品(ミキサー食)注入によって下痢が軽減したとの症例と、文献より胃食道逆流が80%以上減少したという報告を参考にして、不快感の改善に繋がる可能性について検討した。また、経腸栄養患者の一部から「満足感がない」という声が聴かれることもある。そこで今回、半固形化食品を胃瘻から注入することで、満足感とともに誤嚥、下痢による不快感、長時間の同一姿勢などが軽減され、満足度が得られ、QOLの向上になると推察された。</p> | |
| 判定 | 承認 | |

| | | |
|-------|---|-------|
| 申請者 | 看護部 | 松本 明子 |
| 17 | 精神病棟における、暴言(暴力行為)への看護的介入を検討して | |
| 研究の概要 | <p>当病棟では、对患者・対看護師に向けられる暴言(暴力行為)が多く見られる。特定の患者が繰り返している場合も少なくない。そういった現状の中、暴言(暴力行為)に対しその場での対応は行っても、そういった行為を起こさせない為の予防的関わりが不十分なのではないかと感じた。暴言(暴力行為)に対する対処法については、経験や勘に頼っている部分が多いため、今後、暴言(暴力行為)の対処だけでなくディエスカレーションによる沈静化を図りたいと考えた。</p> | |
| 判定 | 承認 | |

| | | |
|-------|--|-------|
| 申請者 | 看護部 | 西崎 良栄 |
| 18 | 長期隔離患者の開放観察による変化 ～ 日課表を用いた隔離室患者との関わりを通して～ | |
| 研究の概要 | <p>統合失調症で長期入院している51歳の女性患者である。精神運動興奮による不穏が著しく疎通性困難、問題行動がある為、10年近く終日隔離状態となっている。現在は排泄や食事、問題行動があるときのみ関わっている状態である。しかし、不定期ではあるがその日の精神状態によっては疎通がとれるところがある。時々、1時間ほど開放観察しながら集団の中で過ごすことができています。その日は夜間良眠のことがあり開放観察することが患者にとってプラスの刺激になると考えた。</p> <p>そこで、長期隔離状態の患者に統一した関わり方で、意図的に日課表にそった援助をおこなうことが、開放観察の拡大に繋がり患者の療養生活の改善になるのではないかと。また、長期隔離患者に対する日頃の看護を振り返る機会にしたい。</p> | |
| 判定 | 承認 | |

| | | |
|-------|--|-------|
| 申請者 | 看護部 | 西村 節子 |
| 19 | 動く重心患者の摂食指導の実践とその評価 | |
| 研究の概要 | <p>前年度に続き、動く重心患者に特化した、ひまわり病棟で作成した食事摂食機能評価表を使い摂食機能を評価する。</p> <p>その結果に基づき摂食訓練の個別プログラムを計画し、日々の食事場面で訓練を行うことで、摂食機能の維持、向上が図れるか食事摂食機能評価表を使い再度評価する。</p> <p>結果を前後比較することで、個別指導の有用性を確認する。</p> | |
| 判定 | 承認 | |

| | | |
|-------|--|-------|
| 申請者 | 看護部 | 石黒 明美 |
| 20 | 医療観察法病棟における望ましい看護方式を検討する | |
| 研究の概要 | <p>アンケートにより、医療観察法病棟で行っている看護方式と 専門的姿勢患者ケア 人間関係 仕事に対する満足度を調査して医療観察法病棟における望ましい看護方式について検討する。</p> | |
| 判定 | 承認 | |

| | | |
|-------|--|-------|
| 申請者 | 看護部 | 石黒 明美 |
| 21 | 「CVPPP研修を受講した事により暴力に対する考え方がどう変化したかその実態を探る…」 | |
| 研究の概要 | <p>対象者の攻撃性が、高まって実際に行動をコントロールせざるをえなくなった時、可能なかぎり確立された方法を模索すべきであり、このテクニック(CVPPP)が代表的である。効果的な行動抑制はチームにゆとりを与え、対象者を安定した状態に導くためである。そこで実際、研修を受ける事で暴力に対する意識と行動が変化するか明らかにしたいと思いこの研究に取り組んだ。</p> | |
| 判定 | 承認 | |

| | | |
|-------|---|-------|
| 申請者 | 看護部 | 石黒 明美 |
| 22 | 「暴力を受けた看護師の陰性感情への対処方法を考える。」 | |
| 研究の概要 | <p>実際に暴力が存在している当医療観察法病棟では、暴力を受けた看護師の陰性感情は様々であり個々に対処している。そこで、暴力による陰性感情に対する対処方法をアンケートで明らかにする。</p> | |
| 判定 | 承認 | |